

会議結果のお知らせ

会議の名称	令和4(2022)年度 第1回 栃木県ケアラー支援に関する有識者等意見交換会
会議の公開について	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開（非公開の理由）
<p>(概要)</p> <p>1 日時 令和4(2022)年4月28日(木) 10時00分から11時50分まで</p> <p>2 場所 県公館 大会議室</p> <p>3 出席者(代理出席を含む。) 全16名のうち、以下15名(50音順) 青木委員、大石委員(会長)、大橋委員、児玉委員、小林委員、齋藤委員 首長委員、庄司委員、五月女委員、柴田委員(仲田委員代理)、 福田委員(副会長)、増淵委員、増山委員、山下委員、依田委員</p> <p>4 議題及び議事</p> <p>(1) 「栃木県ケアラー支援に関する有識者等意見交換会」の設置について 事務局から、意見交換会設置趣旨等を説明した。</p> <p>(2) 会長の選出について 委員の互選により、大石委員(国際医療福祉大学)を会長に選出した。</p> <p>(3) 副会長の指名について 会長から、福田委員(栃木県児童養護施設等連絡協議会)を指名した。</p> <p>(4) ケアラーへの負担軽減に向けた県の取組等について 事務局から、保健福祉部の関係課で実施している取組等を説明した。</p> <p>(5) ヤングケアラー支援に関する国の動向について 事務局から、令和2(2020)年に国が実施した実態調査について説明を行った</p> <p>(6) ヤングケアラー実態調査の実施について 事務局から、県が今年度予定している実態調査の案について説明した。</p> <p>【意見交換会全体を通しての委員からの主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 児童生徒では、自分がケアラーであると意識していない現実があり、子どもたちが、ケアラーという言葉を目や耳にする機会が増えるのは、何らかの効果がある。・ 実態把握することは大切であり、現場の小中学校、高校では対応の仕方もかなり変わってくるだろうと思う。年齢に応じたアンケートの仕方を考えていただきたい。・ ケアラー、ヤングケアラーそのものが、マイナスのイメージとして強くなりかけているような気がする。プラス思考でケアしている子も実際にいる。・ 先進的な自治体は、学校向け調査だけではなく、教員を対象に調査をやっている。栃木県の独自性を出していくのであれば、選択肢の中で考えても良いのではないか。・ 「あなたが好きなことに取り組んでいるか」、「勉強と学校以外のことで、何か熱中できることがあるか」といった設問を入れて欲しい。・ 周りの大人たちもほとんど知らない現状があり、まずは広く県民にヤングケアラーという問題があることをお知らせする策を練って、アンケートに答えやすい土壌をつくっていかないといけないのではないか。	
問い合わせ先	栃木県保健福祉部保健福祉課地域福祉担当 (栃木県ケアラー支援に関する有識者等意見交換会事務局) 電話 028-623-3047 FAX 028-623-3131